

ります。然し週に二回位は組を離れたグループによって遊戯や其の他を指導して一斉保育の害を除くことに努め、又、其の反面一種の劃一的な指導によって集団訓練を積ませてみておりますが、園外保育、遠足等の場合に非常に大切に役立つように思われます。

充分なる意見を申上られませんが誠に残念に存じますが、今後これらについて実験的な調査を継続して正しいあり方について努力致し度いと存じております。

(大和郷幼稚園長)

三年保育の組編成について

佐々木淑子

三年保育の組編成には、いろいろあると思えますが、ここでは私共の幼稚園で現在行っている編成を説明し、現在、その編成の三年保育を受持っている者の立場から、感じていることを述べたいと思えます。

○編成

現在の三年保育の幼児数は、男児十五名、女児十五名、計三十名で、男女児共各々生年月日の早い者と遅い者に二分し、

森の組は、生年月日の早い方の男児八名と女児七名（四月―七月生）計十五名。

池の組は、生年月日の遅い方の男児七名と女児八名（七月―三月生）計十五名。

の二組に編成しております。

担任は各組一名となっております。

○生年月日による組編成の長所と短所

マ一般論から言って、年令の小さい幼児ほど、年令の差によって、身体發育の上からも能力の点でも、社会性の面でも、発達度の差が大きいものでありますから、同じ三年保育の幼児でも、四月生の幼児と翌年三月生の幼児とでは、一年の年令差に伴って、発達度の差は大きいものであると言えます。

生年月日の早い方の組と遅い方の組にわけられた幼児と一番遅く生まれた幼児との年令の差がずっとせばめられるので、それに伴って

発達度の差もせばめられるために、発達に妨じた保育がし易くなると考えられます。これは保育者の側から言える長所でありますが、幼児の側から言っても、組の中のおともだちが大体同じ発達程度にあるので、幼児なりの劣等感をもつこともなく、安定感をもつていられると思われれます。

このような長所が考えられると同時に、同じ程度の幼児が集まるために、発達のおさない者が、発達の進んだ者から啓蒙されたり、よい意味での刺戟をうけたりすることが少くなるので、おさない者はおさないなりでとどまってしまうのではないかとこの心配も考えられます。

マ実際に、生年月日による組編成で保育をして、一般論から言える長所が、果して実際にもあてはまるかどうか考えてみますと、身体發育や能力の発達の上では、生年月日によって組編成をする意義がみとめられると思えます。種々の面で二組を比較すると、次の表の通りに差がみられております。

社会性の発達の上では、現在の三年保育の幼児では、年令による差はあまりみられないようです。社会性の発達は、家庭環境や、入

身体發育測定値 (身長・体重)

		4月平均	4月最高	4月最低	10月平均	10月最高	10月最低	
身長	森の組	男	100.0	105.9	94.3	103.3	110.1	97.3
		女	96.3	100.9	91.1	100.1	105.6	94.9
	池の組	男	94.6	100.1	88.3	97.3	102.6	90.3
		女	92.2	97.7	88.8	95.5	101.7	92.0
体重	森の組	男	15.4	17.3	13.8	16.6	19.0	14.8
		女	14.2	16.7	13.4	15.6	18.6	14.2
	池の組	男	13.6	15.8	11.0	14.6	16.8	12.0
		女	13.7	16.4	12.5	14.5	18.1	13.8

スキップの出来ない者

		4月	5月	6月	7月	8月	10月	11月	12月
森の組	男	7人	4人	1人	1人	1人	0人	0人	0人
	女	1	1	0	0	0	0	0	0
池の組	男	4	3	3	3	3	3	0	0
	女	5	3	2	2	2	1	1	1

体力測定値 (男女別組平均値を表す・10月実施)

		立	巾跳	懸	垂	片脚跳	ボール投	二五米疾走	荷重運搬
森の組	男	98	分秒	1.33	25.6	5.0	7.4	4.2	
	女	85	分秒	1.26	25.9	3.4	8.1	5.0	
池の組	男	82	分秒	1.25	16.5	4.2	7.9	4.6	
	女	78	分秒	1.07	15.2	2.5	8.7	5.0	

する意義はみとめられないよう
です。

○大きい組(四才児及び五才児
の組)と一緒にすることにつ
いて

現在は、大体一組だけの保育
をしておりますが、自由遊びの
時はせんに大きい組と交流し
て遊びますし、他の場合にも、
大きい組と一緒にしてみること
もありますが、大きい組と一緒
にすることについては、次のよ
うなことを感じております。

大きい組と三年保育の組が一
緒に遊ぶことは、大きい子供の
側から言うとは、大きい子供の可
愛がったり世話をしたりする気
持を養う意味でよいことである
し、小さい子供の側から言っ
ても、大きい子供と遊ぶうちに、
自然に遊びの方法を覚える点等
でよいことであると思いますが
実際にやってみて困る点も多
く出て来ます。

園前からの家庭での仕向け方に影響されると
ころが大きいように思われ、個人差が大きく

年齢による差はみとめられませんが、社会
性発達の上では、生年月日によって組織成を

入園当初排尿が一人で出来なかつた者

森の組	男女	0人
		1
池の組	男女	2
		2

入園前はさみき使つたことのない者

森の組	男女	1人
		1
池の組	男女	0
		3

錯画をかいている者

		4月	10月
森の組	男女	1人	0人
		0	0
池の組	男女	4	2
		2	0

大きい子供が、小さい子供を可愛がり、世話をやきすぎるために、小さい子供の自由が失われる。

大きい子供に遊ばせてもらう立場に立つために、自分で遊ぶ習慣がつきにくくなる。大きい子供の乱暴な遊びや、よくない遊びを小さい子供が分別なく真似る等。

製作・音楽リズム・お話等を一緒にすることとは、程度が非常に違うので無理なことだと思ひます。大きい組の子供達がたのしんでいる雰囲気を見て、何となくやりたくなるような気持を、小さい子供におこさせるために見せる程度で、能力の程度も違い、それに伴う興味も、その持続時間も違う大きい組と

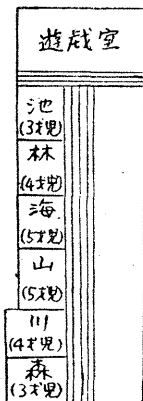
一緒にすることは不適當なことで、それではわざわざ生年月日によって組編成をする意味がなくなると思ひます。

入園当初、大きい組の子供に遊んでもらったり、大きい組がしているのをみたり、一部の仲間に入れてもらったりすることは、幼稚園というものに馴れさせるために有意義なことと思ひますが、すっかり幼稚園に馴れて、自分達で遊べるようになった頃には、大きい組と一緒にすることよりも、三年保育の二組と一緒にする方がいいのではないかと思ひます。

〇三年保育の二組を一緒にすることについて

入園当初は、小人数でまとまっている方が幼児も落着けるし、先生の手も行き届くと思ひますが、幼稚園生活にも馴れて、自分達で遊べるようになった頃には、一組十五人ではおともだちも限られてしまいますし、十五人のうちの一人の影響は非常に大きく、組の傾向が一人の子供の動きで左右されるように感ぜられますので、三年保育の二組を一緒にする機会もあつた方がいいと思ひますし、三十人の組にして二人で保育することも試みたいと思つております。

私共の幼稚園では、三年程前から、別の観点から考へて、保育室の配置を図のようにし



ておりますが、今述べたような点から考へると、三年保育の二組をならべて配置した方がいいように思ひます。現在のように、三年保育の二組が、幼稚園の両端に離れていても、大きい組に遊びに行くよりも数多く、お互にもう一方の三年保育の組に遊びに行くし、何

となく同じ年であるという親しみをもって、
るようですので、保育室が隣同志であつたな
ら、もつと交流もうまくいくようになり、生
年月日による組編成の短所もおぎなえるので
はないかと思つております。

(お茶の水大附属幼稚園)

組編成と担任制の新しい

試み

(協力担任制)

宮地 忠雄

一、はしがき

組編成とか担任とかといったことは、多く
の場合、園長や校長の関心を持つことであり
先生方は、形成された枠内で、その経営や運
営を研究するという傾向が強い。

園長や校長は、組編成や担任制については
人事の面としては種々工夫をこらすが、その
形成面については、前から行われている方法
を踏しゅうして、みだりにその形式を変える

ようなことをしないというのが普通のような
ある。

であるから、環境の構成とか、単元の展開
とかといったことについては、多方面に涉る
実験データーが公にされているが、組編成と
か担任制といった面については、比較的新し
い実験が少いようである。

私の学校の実験は、昨年度から着手され、
今年度さらに、その計画を前進させたもので
あるが、まだ的確にその評価をしていないの
で、実験結果を発表するという段階にまで達
していない。

ここには、どのような方法で新しい試みを
しているかの一端を述べてみることにする。

二、一般の組編成と担任のし方

◇組編成のし方は、常識的に考えて

1、固定制—一年で編成したものを六年卒業
するまで変えない。

2、組がえ制—学年進行にしたがつて組がえ
をするもので、

* 一年毎に

* 二年毎に—低、中、高の学年の変りめに組
がえをするもの。

* 三年から四年に進むとき、あるいは四年か
ら五年に進むときに組がえをするもの。

等、種々あるが、二年毎に組がえをするが
多いようである。

の二つに区別され、1、より一般に2、の
方が多く採用されている。

その理由は、

* 交友の範囲を広くし、だれとでも親しめる
ようにする。

* 学級間における不当な競争や対立意識を除
く。(学級固定制では、ともすればこの傾
向が強くなる)

等が考えられる。

◇担任のし方も、まず組編成と同じように

1、持ちあがり制—一年から六年まで一人の
担任が持ちあがっていくもの。

2、交替制

* 一年毎に

* 二年毎に—低、中、高の学年の変りめに、

* 三年から四年に進むとき、あるいは、四年
から五年、または、五年から六年に進むと
き。

等があるが、二年毎に担任替をするのが多
いようである。